

問1 室町時代、室町幕府や有力な寺社は財政収入を増やすために、物資の往来が盛んな街道の要所に特定の施設を設置しました。この施設を利用した制度の説明として最も適切なものを選んでください。（2024年 長野県公立入試 類似）

1. 街道の要所に関所を設置し、そこを通過する商人や旅人から通行料を徴収して収入源とした。
2. 幕府が公認した株仲間が営業の独占権を与える代わりに、運上や冥加と呼ばれる税を納めさせた。
3. 問屋が生産者から商品を一括で買い取る仕組みを作り、幕府がその取引額の一定割合を徴収した。
4. 主要な港に奉行所を置き、海外から持ち込まれた木材などの輸入品をすべて幕府が買い上げた。

問2 能に関する歴史的背景や特徴について述べた記述として、最も適切なものを説明文の中から選びなさい。（2024年 群馬公立入試 類似）

1. 室町時代の将軍の保護を受け、観阿弥・世阿弥によって芸術として完成された。
2. 江戸時代の初めに、出雲の阿国が始めた踊りがもととなり、都市の庶民の間で流行した。
3. 平安時代に貴族の間で親しまれた和歌や蹴鞠が、武士の作法として制度化されたものである。
4. 近松門左衛門が脚本を書き、三味線の伴奏に合わせて人形を操る芸能として発展した。

問3 室町時代の京都において、都市の運営や政治的な自治を担った有力な商工業者の集団を何と呼びますか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 町衆
2. 株仲間
3. 惣村
4. 座

問4 14世紀から16世紀にかけて、琉球王国が東アジアと東南アジアを結ぶ拠点として繁栄した要因となった、当時の交易の仕組みとして最も適切なものはどれですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 中国（明）から輸入した陶磁器や生糸などを日本や東南アジアへ転売し、各地の特産品を流通させる中継貿易
2. 日本の銀を主な輸出品として、東南アジアの香辛料を直接買い付け、琉球国内でのみ消費する独占貿易
3. ヨーロッパ諸国と直接交渉を行い、鉄砲やキリスト教を日本へ仲介することで利益を得る南蛮貿易
4. 日本国内の特産品である砂糖を主軸とし、中国を通さずに東南アジア諸国と直接取引を行う自由貿易

問5 日明貿易において、明が日本側に対して「勘合」という証明書の持参を義務付けた主な理由として、正しい説明はどれですか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

1. 東シナ海などで活動していた海賊である倭寇を識別し、取り締まるため
2. キリスト教の布教を制限し、幕府による貿易の独占を強めるため
3. 朝貢貿易の形式をやめ、対等な立場での自由貿易を促進するため
4. ポルトガルやスペインなどのヨーロッパ勢力の進出を阻止するため

問6 応仁の乱以後、室町幕府の支配力が弱まったことで、各地で実力のある者が上の身分の者を倒して勢力を広げる社会的な風潮が見られるようになりました。このような風潮を何と呼びますか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 下剋上
2. 御恩と奉公
3. 寄合
4. 徳政

問7 かつて沖縄の首里城正殿にかけられていた鐘には、琉球王国が「万国の架け橋（万国の津梁）」となって、明や日本などとの中継貿易で栄えている様子が刻まれています。この貿易によってもたらされた富や大陸文化が流入し、銀閣寺などの東山文化が開花した場所は、現在の地図におけるどの都市付近にあたりますか。（2019年 富山県公立入試 類似）

1. 京都
2. 堺
3. 厳島
4. 平泉

問8 室町時代の中期以降、農民たちが「徳政令（とくせいらい）」を求めて「土一揆（つちいっき）」を起こし、土倉や酒屋を襲撃する事件が頻発しました。農民たちがこれらの業者を襲撃の標的とした直接的な理由として、最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山公立入試 類似）

1. 借金の証文（借用書）を破棄させ、借りていた金を帳消しにするため。
2. 業者が幕府と結託して、米の価格を不当に引き上げる操作を行っていたため。
3. 海外との貿易を独占する業者に対し、自分たちの農作物を輸出するよう求めたため。
4. 業者が持つ強力な自警団が、農村の土地を無理やり奪い取るようになったため。

問9 鎌倉時代に中国から伝えられた禅宗は、座禅などの厳しい修行を通じて自らを律する教えが武士の精神に合致し、広く普及しました。この禅宗の僧であり、墨の濃淡のみを用いて自然などを描き出す手法を大成させた人物は誰ですか。（2024年 歴史公立入試 類似）

1. 雪舟
2. 法然
3. 空海
4. 親鸞

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 街道の要所に関所を設置し、そこを通過する商人や旅人から通行料を徴収して収入源とした。	室町時代には農業や手工業の発達により地域間の流通が活発になりました。この経済活動に注目した室町幕府や寺社などは、街道や港に「関所」を設け、そこを通る人々から「関銭（せきせん）」や「津料（つりょう）」といった通行料を徴収しました。これは当時の権力者にとって重要な財源となりました。選択肢にある株仲間や問屋の全盛期は江戸時代であり、時代背景が異なります。
問2	<b>答え 1</b> 室町時代の将軍の保護を受け、観阿弥・世阿弥によって芸術として完成された。	能は、足利義満という強力なパトロン（保護者）を得たことで、単なる見世物から高い芸術性を持つ舞台へと発展しました。選択肢にある「出雲の阿国」は歌舞伎、「近松門左衛門」は人形浄瑠璃の解説であり、いずれも江戸時代の町人文化の特徴を示しています。能はこれらより前の室町時代に、幕府という武力組織の頂点にある人々の支援を受けて確立されました。
問3	<b>答え 1</b> 町衆	室町時代、幕府の権威が低下し守護大名が争う中で、京都の有力な商工業者たちは自衛や都市の管理を行うために結束しました。彼らは町衆と呼ばれ、自ら町堂を拠点に寄り合いを開き、自治的な都市運営を行いました。
問4	<b>答え 1</b> 中国（明）から輸入した陶磁器や生糸などを日本や東南アジアへ転売し、各地の特産品を流通させる中継貿易	琉球王国は地理的な利点を活かし、中国（明）への朝貢貿易で得た品物を日本、朝鮮、東南アジアへ運び、逆に各地の特産品を中国へ届ける「中継貿易」で莫大な富を築きました。首里城の正殿に掲げられていた「万国津梁の鐘」の銘文には、琉球がアジアの架け橋として機能していた誇りが記されています。14世紀から16世紀はこの貿易の全盛期にあたります。
問5	<b>答え 1</b> 東シナ海などで活動していた海賊である倭寇を識別し、取り締まるため	当時、明の沿岸部では倭寇による掠奪行為が問題となっていました。明は室町幕府に対して、倭寇の取り締まりを貿易の条件として提示しました。これを受けた幕府は、正式な貿易船にのみ勘合を持たせることで、私的な貿易船や倭寇を排除し、明との安定的な関係を築こうとしました。
問6	<b>答え 1</b> 下剋上	応仁の乱によって幕府や守護大名の支配力が衰えると、下の者が上の者を実力で打ち倒して権力を握る「下剋上（げこくじょう）」の風潮が強まりました。これにより、各地で実力を持った戦国大名が台頭し、日本は戦国時代へと突入していきました。
問7	<b>答え 1</b> 京都	「万国の津梁」と刻まれた鐘の銘文は、琉球王国がアジア諸国と日本を結ぶ貿易の拠点であったことを示しています。この貿易を通じて大陸の文化や物資は日本の政治の中心地であった京都へと運ばれ、将軍家などの保護を受けて銀閣（慈照寺）に代表される東山文化の発展を支えました。選択肢にある堺は自治都市として栄え、厳島は平氏の崇敬を集めた安芸国の地であり、平泉は奥州藤原氏の拠点です。
問8	<b>答え 1</b> 借金の証文（借用書）を破棄させ、借りていた金を帳消しにするため。	凶作や重税に苦しむ農民たちは、生活のために土倉から借金をしていました。返済が困難になると、彼らは集団で「土一揆」を起こし、質屋である土倉などを襲って借金の証文を奪い、破棄することで強制的に借金を帳消しにしようとしていました。幕府に対しても、公式に借金を無効とする「徳政令」の発布を強く要求しました。
問9	<b>答え 1</b> 雪舟	鎌倉時代に伝えられた禅宗は、その精神性が武士に好まれ、室町時代にかけて水墨画などの独自の文化を生み出しました。雪舟は禅宗の僧として修行しながら中国（明）に渡って絵画の技法を学び、帰国後に日本の水墨画を芸術として完成させました。選択肢にある法然は浄土宗、空海は真言宗、親鸞は浄土真宗の開祖です。